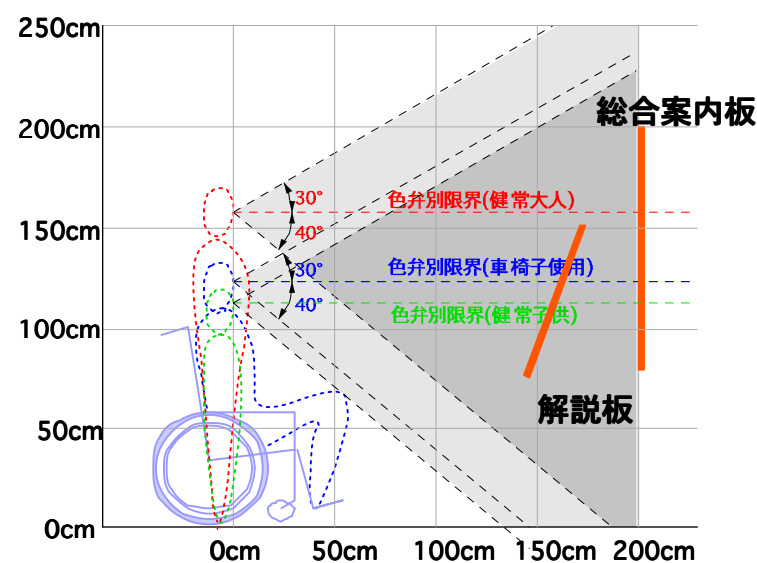


## ■ サイン検討図

### ■ モデル案のサイズ決定根拠のための目安

- サインのデザインは、「自然公園法」及び「支笏洞爺国立公園管理計画書」における基準を念頭に置いた上で、進める。
- 各サインの盤面については、下記のように、健常者の大人・子供、及び車椅子使用者の視点のおよそ平均となるよう、高さを設定。観点より大きさを想定。
- 文字の大きさについては、サインの性格・上位性を考慮した上で、「視認性・視距離」を設定し、それぞれ想定。



### ■ 盤面の視認性・高さについて

健常者（大人、小1-2位の小学生）、車椅子使用者の視線と盤面の関係は左図のようになる。色弁別限界（視線を動かさない状態において、短時間で色を見分けられる範囲）で、それぞれ見える範囲は濃いグレーの範囲となっており、車椅子使用者の視線を目安に、視認性を確保する方向で、盤面の高さ、角度などを設定する。

また文字の視認性については、サインの性格に応じて、和文文字については、

- ◇総合案内板：見出し20m、文章4~5m
- ◇解説板で、見出し10m、文章2m前後で文字の判別出来る事を、およその目安として設定。

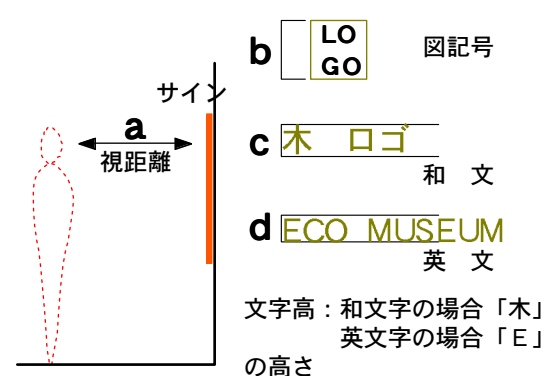
### ■ 文字の大きさ：日本語と英語のバイリンガルとした場合（以下、デザイン上の想定）

総合案内板：文字の大きさは20mm（+ふりがな）と想定。その場合、次頁の盤面（W1,350×H1,200）レイアウトとすると邦文で600~700文字程度+英訳文が書き込めると想定。

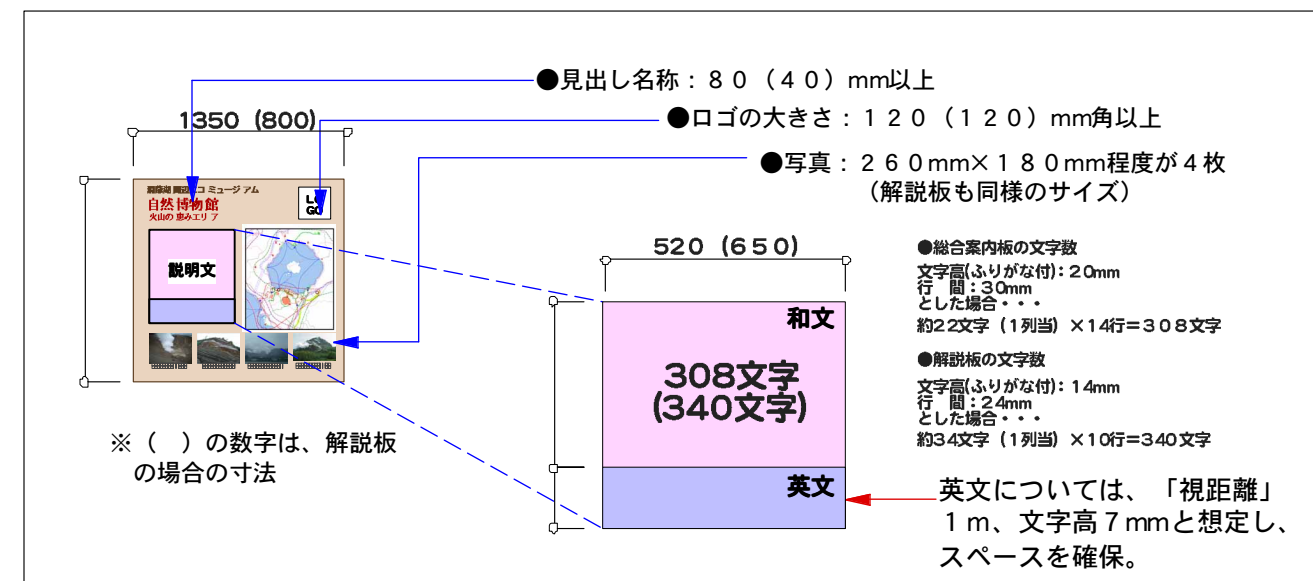
解説板：文字の大きさを14mm（ふりがな）と想定。その場合、次頁の盤面（W800×H800）レイアウトとすると邦文で約500~600文字程度+英訳文が書き込めると想定。

### 視距離による必要な図記号と文字の大きさの関係

a. 視距離	b. 図記号の基準枠寸法	c. 和文文字高	d. 英文文字高
40m	480mm角以上	160mm以上	120mm以上
30m	360mm角以上	120mm以上	90mm以上
20m	240mm角以上	80mm以上	60mm以上
10m	120mm角以上	40mm以上	30mm以上
5m	60mm角以上	20mm以上	15mm以上
1m	35mm角以上	9mm以上	7mm以上



※参考資料：「建築設計資料集3」（日本建築学会）、「ひと目でわかるシンボルサイン 標準案内用図記号ガイドブック」（監修：国土交通省）



### ■ モジュールの確認

これまでに、認識性、バリアフリーの観点などをから検討した、盤面の大きさ、高さなどについて、大人（健常者）、子供（小学校1-2年生程度）、車椅子使用者の各モジュールをあてはめ、確認する。

